山形大学 （山形県）

地域の人や風俗習慣等、山形文化の魅力にはまってみましょう！

■大学紹介

① 大学の特色及び概要
山形大学は、6学部、1学環、6大学院研究科を備え、約9,000人の学生が勉学に励む、東日本でも有数規模の総合国立大学です。2024年には創立75周年を迎えた歴史と伝統を受け継いでおり、優れた人材を多く社会に送り出しています。山形大学は、「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」の3つの使命と「創造性及び豊かな人間性を有する人材を育成する」という教育の基本理念に基づき、新時代に相応しい人間力を養い、知・徳・体の調和のとれた人材を社会に輩出することを目指しています。

② 国際交流の実績

海外機関との交流協定数：43カ国・地域159機関

③ 過去3年間の受入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受入れ実績

2025年：留学生数261人、日研生3人
2024年：留学生数264人、日研生2人
2023年：留学生数271人、日研生1人

④ 地域の特色
山形県は、南東北の日本海側に位置している。四季折々に、豊かな自然と歴史を身近に感じることができる。県内各地には温泉地があり、さくらんぼなどの果物の栽培も盛んである。また、2年毎に山形国際ドキュメンタリー映画祭が開催され、世界中から監督やファンが集まって交流を深めている。

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的
b)主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色
山形大学には、日本語・日本文化に関する幅広い領域の科目があり、充実したコースが組まれている。日本語科目は、研究に必要な言語能力を伸ばすことを目指して科目が構成されている。多文化交流科目と各専門科目では、言語学、文学、歴史、異文化交流、社会学、地理、経済、政治、音楽、美術、教育など様々な角度で日本文化を学ぶことができる。また、1年計画で自らの選択したテーマに沿って研究プロジェクトを行うことが本プログラムで特に力を入れている点である。このプログラムでは、口頭発表をし、修了論文を書くことを目指している。

③ 受入定員
4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等
1）主専攻あるいは副専攻が日本語・日本文化に関する分野であること。
2）日本語能力試験 N2合格以上またはそれに準ずる日本語力を有することが望ましい。日本語を使って自分の考えが表現でき、日本人と話し合うことのできる日本語力を持つこと。

⑤ 達成目標
・山形の人々との交流を通して、地域に根ざした日本文化への理解を深める。
・専門科目を受講して日本語による学術的な内容の理解力を養う。
・自ら行う研究プロジェクトで、修了論文を作成し、報告会で発表することができる運用力を身につける。

⑥ 研修期間（在籍期間）
研修期間：2026年10月上旬 ～ 2027年9月下旬
（在籍期間：2026年10月1日～2027年9月30日）

⑦ 奨学金支給期間
2026年10月 ～ 2027年9月

⑧日本の家庭訪問、見学旅行、地元の祭り（例:花笠まつり）、いも煮会などを通じて、地域の人々と知り合い、日本文化を体験することができる。また、茶道、生け花、こけし絵付け、座禅、着付けなどへの参加を予定している。

9月下旬: 渡日
9月: オリエンテーション
10月: フィールドトリップ
11月: 研修旅行
12月: 留学生懇談会
1月: スピーチ発表会
4月: お花見
8月: 留学生日本語発表会
花笠まつり
9月下旬: 帰国

果物狩り

そば打ち体験

⑨ コースの修了要件
「⑩研修・コース科目の概要・特色」の要件を満たし、本プログラムを修了した者には、修了証が発行される。また、成績証明書が発行される。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

１）研修・コース科目の特徴
授業は前期（4～8月）、後期（10～2月）各15週開講される。Ⅰは、日研生のための必修科目である。
選択科目の授業は、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの3つの種類がある。Ⅰは留学生向け日本語科目で、Ⅱ・Ⅲは日本人学生とともに学ぶ科目である。このプログラムを修了するには12科目以上の履修が必要で、そのうち6科目以上は、Ⅰ・Ⅱの分野から選択するものとする。

２）研修・コース開設科目
Ⅰ）必須科目（各15週）
研究プロジェクトⅠ〔後期〕
研究プロジェクトⅡ〔前期〕
本プログラムの必修科目。指導教員の個別指導を受けて選んだテーマについて、日本語で研究レポートを書く。学期の最後には、各自のテーマについて最終発表を行う。

Ⅱ）選択科目（各15週）
日本語中級1「総合」、日本語中級2「総合」はいずれも週4コマだが、他の授業は全て週1コマである。

Ⅰ　日本語科目
ａ．日本語研修コース〔前期・後期〕
中級1は中級前半、中級2は中級後半のレベル。
日本語中級1「総合」
日本語中級1「読む」
日本語中級1「書く」
漢字3
日本語中級2「総合」
日本語中級2「読む」
日本語中級2「書く」
漢字4

ｂ．基盤共通教育科目〔前期・後期〕
上級1は上級前半、上級2は上級後半のレベル。
日本語上級1 「話す」
日本語上級2 「話す」
日本語上級1a「書く」
日本語上級1b「書く」
日本語上級2a「書く」
日本語上級2b「書く」

日研生は主に日本語上級から選択して履修する。
「話す」では、大学で必要な会話の練習、発表やディスカッションで必要な日本語の練習を行う。「書く」では、レポートや論文など、大学の学習・研究活動に必要な文章を書く練習を行う。

ｃ．人文社会科学部専門日本語科目
日本語 a〔前期〕
スピーチ・ディスカッション・レポートトレーニング
日本語 b〔後期〕
読解・聴解・作文

Ⅱ　日本文化・多文化交流・地域学科目

日本文化入門〔前期・後期〕
地域のリソースを活かし、茶道、こけし絵付け、平清水焼き、座禅、温泉などの日本文化を体験しながら学習する。
実践！多文化コミュニケーション〔前期・後期〕
授業内での異文化交流体験を通して、異なる言語や文化的背景を持つ他者を知り、多様な背景を持つ他者と共生していくために必要となる態度とコミュニケーションスキルを身につける。
外国語としての日本語〔後期〕
日本語を客観的に分析する力を養うことを目的とする。日本語教育の初級レベルで扱われる文法・表現を中心に扱う。
フィールドワーク－共生の森もがみ〔前期〕
山形県北部の最上地方で地元の達人を講師に、森と関わる暮らしや独特の祭りの山車作り等を体験する。
異文化理解演習〔前期〕
通過儀礼を通して日本文化·社会及び台湾文化·社会を理解する。異なる文化的な背景を持つ者（日本人学生、留学生）同士で議論することによって異文化理解の知識を身に付ける。

Ⅲ　人文・社会科学科目

ａ．人文社会科学部開講科目
日本語学特殊講義 a 〔後期〕
日本語に関する諸問題について考察する。
日本語学概論〔前期〕
日本語に関する諸事項について解説する。
日本語文法概論〔後期〕
現代日本語の記述的文法を解説する。
日本語学演習 a〔前期〕
日本語の諸問題に関する研究発表を行う。
日本語教育学概論〔前期〕
日本語教師になるために必要な基礎的な知識を学ぶ。
日本語教育学基礎演習 1〔前期〕
代表的な教授法について長所・短所を理解し、特徴的な教室活動を考え試行する。
日本語教育学基礎演習 2〔後期〕
初級の教科書・教材を分析し、想定する学習者にとっての学習目標を設定してみる。
日本語教育学特殊講義 1〔前期〕
初級レベルの学習目標を設定し教案を作成する。それをもとに模擬授業を行う。
日本語教育学特殊講義 2〔後期〕
外国人のインタビューを分析し、日本語コースをデザインをしてみる。
映像学概論〔前期〕
映画の分析論。日本映画の分析を含む。
日本古代中世文学特殊講義 b〔後期〕
和歌・連歌の形態を学び、歌合・連歌会を体験することで短詩の役割を理解する。
日本近現代文学特殊講義 a 〔後期〕
明治以降平成までの小説、詩、評論などを読む。
地誌学〔後期〕
地域で観察されるさまざまな現象と歴史的、自然的風土との関係を理解する。
比較文化・文化交流史概論〔後期〕
近現代の日米関係を軸として、比較と交流史の視点から、日本文化の変容について論じる。
日本歴史文化論（日本学入門）〔前期〕
日本と東アジアの歴史的交流とその意義について基本的な理解を深める。

ｂ．地域教育文化学部開講科目
国語学概論Ⅰ〔前期〕
音声・音韻、語彙、文法などを中心に日本語の基礎知識を広く得る。
国語学概論Ⅱ〔後期〕
現代日本語の諸分野のうち、特に音声学の事項について解説する。国語学概論Ⅰの内容を理解している前提で講義する。

ｃ．基盤共通教育開講科目〔前期・後期〕
特定の分野に偏らず、幅広い学問分野を学ぶことができる。自分で関心がある科目を選択し、履修する。

⑪ 指導体制
1）プログラム実施教員
学士課程基盤教育院の教員が実施する。
内海由美子　教授　日本語教育
尤銘煌　　教授　社会学
今泉智子　准教授　日本語教育

2）指導教員
人文社会科学部または学士課程基盤教育院の教員が研究プロジェクトのための個別指導を行う。研修生は指導教員の部局に所属する。

■宿　舎
短期留学生は60名まで山形国際交流会館（山形市香澄町）または清明寮（山形市平清水）に入居できる。宿舎は、大学へ自転車などで通学できる場所にある。
（例：山形国際交流会館（香澄町）単身室）
①宿舎費（1ヶ月）　5,900円
②共益費（1ヶ月）　4,000円
③居室清掃料金　24,200円　※入居時

（宿舎設備・備品）
ベット、机と椅子、エアコン、ガスFF暖房機、冷蔵庫、ミニ・キッチン、シャワー、トイレ等

※寄宿料等は見直しにより、改定される場合があります。

山形国際交流会館
（参照HP）
https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/international/overseas/accommodations/

■修了生へのフォローアップ
これまでの修了生たちと、本学で指導に当たった教員たちとの間では継続して連絡がとられている。修了生のほとんどが日本か母国で大学院に進学し、さまざまな分野でキャリアを積んでいる。

■問合せ先
＜担当部署＞
山形大学ｴﾝﾛｰﾙﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ部国際交流課

住所：〒990-8560
山形県山形市小白川町一丁目4-12

TEL：　+81-23-628-4017（直通）
FAX：　+81-23-628-4836
Email：yu-rgkokusai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

＜ウェブサイト＞
山形大学：https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/